

平成 30 年漁期ずわいがにオホーツク海系群漁獲可能量（TAC）の改定について

平成 31 年 4 月
水 産 庁

1 TAC

改定後	改定前
1,264 トン	1,000 トン

改定の考え方

- 1 本資源については、我が国水域への来遊状況に年変動があることを考慮して、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、「近年の最大漁獲量」をベースに TAC を設定している。
- 2 今漁期の沖合底びき網漁業の漁獲量は、平成 31 年 1 月時点で過去最大規模の 274 トンに達し、2 月以降の最盛期を含めた漁期全体の予想は従前の「近年の最大漁獲量（732 トン）」を上回る 1,139 トンになる。
（沖合底びき網漁業の平成 30 年の予想漁獲量の考え方）
以下（1）、（2）の合算値
（1）1 月までの漁獲実績：274 トン
（2）2～6 月の予想漁獲量：近年の最大値（865 トン；平成 12 年）
- 3 オホーツク海における大臣管理分の数量を新たな「近年の最大値」である 1,139 トンに改定し、これに知事管理分の数量（125 トン）を加えた 1,264 トンを同海域の新たな TAC とする。

2 配分（別紙参照）

「漁獲可能量（TAC）の配分シェアの見直しについて」（水産政策審議会第 84 回資源管理分科会資料 5）に従い、関係業界間の合意に基づき配分する。

参考：ずわいがにT A Cの推移（直近5漁期）

単位：トン

系群	H30年 (2018年)	H29年 (2017年)	H28年 (2016年)	H27年 (2015年)	H26年 (2014年)
日本海系群 A 海域	3,200 (3,600)	3,700	3,800	3,500	3,700
日本海系群 B 海域	610	510	590	660	530
北海道西部系群	43	43	43	43	43
オホーツク海系群	1,264 (1,000)	1,000	1,000 (500)	1,000 (500)	630 (500)
太平洋北部系群	173	263	299 (59.5)	20.1	188
総漁獲可能量	5,290 (5,426)	5,516	5,662 (4,992.5)	5,223.1 (4,723.1)	5,091 (4,961)

※ 括弧内は改定前の数字（期中改訂があった場合）

第一種特定海洋生物資源	総漁獲可能量 (トン)
ずわいがに	5,290 (5,026)

大臣管理分			
指定漁業の種類	数量 (トン)	操業区域	数量 (トン)
沖合底びき網漁業 及び ずわいがに漁業	3,688 (3,424)	A 海域 (日本海西部)	2,348
		B 海域 (日本海北部)	43
		D 海域 (オホーツク海)	1,139 (875)
		E 海域 (北部太平洋)	158

知事管理分		
都道府県名	数量 (トン)	注記
北海道	168	茨城県及び島根県については、若干とする。
秋田県	15	
山形県	84	
新潟県	424	
富山県	44	
石川県	348	
福井県	190	
京都府	44	

留保枠	日本海 A 海域	0トン
	日本海 B 海域	43トン

※青色欄の下段括弧内は改定前の数量